

～まちの話題～

● 落語で思いやりの心を学ぶ



露の団四郎さん

落語家の露の団四郎さんが講師を務めた人権教育推進事業講演会が、12月9日に中央公民館本館で開かれました。

「お笑い人権講座～思い込みと思いやり ちょっとの違いで大きな違い」の演題で、前半は講話、後半は落語の構成で行われた講演会。団四郎さんは思いやりの心の大切さについて、相手の気持ちを考え「遠慮はするな、気兼ねをしろ」と話してくれました。

人権に対する理解と認識を深めるために集まった約100人の参加者は、団四郎さんの軽妙なおしゃべりで大いに笑って1時間半の講演を楽しみました。

● 人権教室でいじめについて考える



意見を並べて検討する児童たち

人権週間（12月4日～10日）期間中の12月7日、町内の人権擁護委員4人が講師となり「人権教室」を開きました。町内の小学校では初めての試みで、東部小学校の6年生児童55人が6つのグループに分かれ、いじめについて考えました。

グループ内で積極的に話し合い、まとめた意見を「いじめをなくすための宣言」として発表した子どもたち。自分たちの意見を発表する姿は堂々としていました。人権擁護委員の関政雄さんは「思っていた以上に子どもたちが活発に意見を出し、検討なども真面目に取り組んでくれた」と感想を語ってくれました。

あぐびっぴはクリスマスで大いに盛り上がる



すてきな歌声の響きに聞き入る親子連れ



美しい音色を奏でるハンドベル演奏

子育て支援センター「あぐびっぴ」の12月は、クリスマス気分で大いに盛り上がりました。

12月11日には、クリスマスコンサートがありました。訪れた多くのお母さんや子どもたちは、ハンドベルの演奏をうっとり聞き入ったり、すてきなコーラスの歌声に合わせて手拍子をならして参加したりと、思い思いにコンサートを楽しみました。

17日～21日の「クリスマスウィーク」最終日には、サンタクロースがやって来ました。サンタの格好をした町長が、子どもたちにプレゼントを手渡しました。プレゼントは、セロハンテープの芯で作った鈴。心休まる優しい音色を子どもたちが楽しめるようにと、あぐびっぴ職員が作りました。



町長サンタからプレゼントをもらう子ども